

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|----------------|-------|------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 684 号 | 氏名 | 山口 泉 |
| 学位審査委員 | 主 査 | 中尾 一彦 | |
| | 副 査 | 永安 武 | |
| | 副 査 | 李 桃生 | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、肛門機能不全を示す動物モデルの確立を目指しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 Sprague-Dawley (SD) ラットの肛門から直腸の内外肛門括約筋を半周にわたり切除後、圧測定用カテーテルを用いて安静時肛門内圧を経時的に測定し、さらに、同部位の組織学的検討を行っており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 内外肛門括約筋切除群における安静時肛門内圧は、術後 7 日目、14 日目、28 日目に於いて、対照群 (Sham 手術群) に比し、有意に低値であった。組織学的にも手術部位の内外肛門括約筋の欠損が確認された。以上のことから、内外肛門括約筋の半周切除により、少なくとも 1 ヶ月持続する安静時肛門内圧低下を来す肛門機能不全ラットモデルが得られることが明らかとなった。今後、本モデルを用いることで肛門機能不全治療研究への展開が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は肛門機能研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |